

“Quantum many-body dynamics under continuous observation”

Prof. Masahito Ueda
(Department of Physics, the University of Tokyo)

量子気体顕微鏡を用いて冷却原子気体を原子一個のレベルで観測するという実験技術の開発は、量子多体系物理に大きなインパクトを与えつつある。これまでは原子を個別にみることができないために原子集団を統計力学的に記述する手法が用いられてきたが、今や原子一個一個の動きを実時間で観測できる可能性が開けつつある。しかし、そのような極限観測状況下では量子測定 of 反作用が無視できない。講演では、そのような状況下で量子多体物理のこれまでの描像がどのような変更を受けるかについて議論する。

Language: Japanese
(講演言語: 日本語)

Nov.30th (Wed.) 13:30- at Nishina Hall
2016年 11月30日 (水) 13:30 -
於 仁科ホール、仁科記念棟2階

Contact: RIBF Nuclear Physics Seminar Organizer
npsoc@ribf.riken.jp
<http://ribf.riken.jp/~seminar/>